

9.1

IBM MQ GUI ウィザードのヘルプ

IBM

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[21 ページの『特記事項』](#)に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM® MQ バージョン 9 リリース 1、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様が IBM に情報を送信する場合、お客様は IBM に対し、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で情報を使用または配布する非独占的な権利を付与します。

© Copyright International Business Machines Corporation 2007 年, 2024.

目次

IBM MQ GUI ウィザードのヘルプ.....	5
IBM MQ のインストールと構成.....	5
Prepare IBM MQ Wizard を使用したユーザー・アカウントの構成.....	5
「デフォルト構成」ウィザードを使用したデフォルト構成の作成、表示、または変更.....	11
IBM MQ for Windows のアンインストールまたは変更.....	13
ポストカード・サンプルを使用した IBM MQ インストール済み環境の検査.....	14
ポストカード: サインオン.....	15
ポストカード: 1つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換.....	16
ポストカード: 2つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換.....	17
ポストカード: 異なるタイプのポストカード間のメッセージ交換.....	18
ポストカード: ポストカードの動作.....	18
特記事項.....	21
プログラミング・インターフェース情報.....	22
商標.....	22

IBM MQ GUI ウィザードのヘルプ

このヘルプ文書は、IBM MQ のインストールと初期構成プロセスをサポートします。

グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用してインストールする場合は、適切なオプションや設定を適用できるように、複数の画面やウィザードにガイダンスが表示されます。

ランチパッド

ソフトウェア要件を確認し、ネットワーク情報を指定して、IBM MQ インストール・ウィザードを開始します。

IBM MQ インストール・ウィザード

ソフトウェアをインストールして、IBM MQ 準備ウィザードを開始します。

IBM MQ 準備ウィザード

IBM MQ サービスと IBM MQ Explorer を開始します。

IBM MQ Explorer

キューとキュー・マネージャーを管理し、デフォルト構成ウィザードとポストカード・アプリケーションにアクセスします。

IBM MQ のインストールと構成

IBM MQ へようこそ。このヘルプ資料では、IBM MQ をインストールおよび構成するときに必要な可能性がある情報を参照できます。

このタスクについて

グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用して IBM MQ をインストールするときは、いくつかの画面やウィザードのガイドに従って関連するオプションや設定を適用することができます。ランチパッドを使用してソフトウェア要件を検査し、ネットワーク情報を指定し、IBM MQ インストール・ウィザードを開始して、このウィザードを使用してソフトウェアをインストールします。

IBM MQ のインストールが完了したら、Prepare IBM MQ Wizard および「デフォルト構成ウィザード」を使用して IBM MQ を構成することができます。

関連タスク

[ポストカード・サンプルを使用した IBM MQ インストール済み環境の検査](#)

ポストカード・サンプル・アプリケーションをセットアップして使用すると、IBM MQ のローカル・インストール済み環境またはサーバー間インストール済み環境を検査し、関連付けられた通信リンクが正常に機能しているかをテストすることができます。

Prepare IBM MQ Wizard を使用したユーザー・アカウントの構成

Prepare IBM MQ Wizard は、ご使用のネットワーク用のユーザー・アカウントで IBM MQ を構成するのに役立ちます。任意のキュー・マネージャーを開始するには、その前にこのウィザードを実行して IBM MQ サービスを構成する必要があります。

このタスクについて

IBM MQ のインストールが完了すると、「Prepare IBM MQ Wizard」ウィンドウが表示されます。Prepare IBM MQ Wizard また、「スタート」メニューからいつでもウィザードを実行することができます。

ウィザードで示される指示に従って、適切な権限を持つユーザー・アカウントで IBM MQ を構成します。それから、ウィザードでプロンプトが出されたら、IBM MQ Explorer およびリリース情報を起動するかどうかを選択します。

ユーザー・アカウントが適切ではないことが検出された場合は、システム管理者に適切なアカウントを作成してもらおう方法についての [7 ページの『Prepare IBM MQ Wizard での IBM MQ アカウントの構成』](#)を参照してください。

Prepare IBM MQ Wizard (AMQMJPSE.EXE) は、以下のパラメーターと共に使用できます。

表 1. Prepare IBM MQ Wizard に使用できる開始パラメーター			
パラメーター名	パラメーターの説明	パラメーターの使用方法	パラメーターが指定されていない場合のデフォルト・アクション
-l ファイル	ログ・ファイルの作成	Prepare IBM MQ Wizard は、プログラム・アクションや結果をログ・ファイルに追加します。 このパラメーターは、そのログに使用するファイル名を指定します。パスが指定されていない場合、IBM MQ Data ディレクトリーが想定されます。ファイル名が指定されていない場合、AMQMJPSE.LOG が想定されます。	IBM MQ Data ディレクトリーのログ・ファイル AMQMJPSE.LOG に追加します。
-r	MQSeriesService ユーザー・アカウントのリセット	Prepare IBM MQ Wizard が初めて実行するときに、特定の設定と許可を持つローカル・ユーザー・アカウント MUSR_MQADMIN が作成されます。MQSeriesService コンポーネントは、このアカウントの下で実行されるように構成されます。このウィザードは、LAN 構成に応じて、そのアカウントの代わりにドメイン・ユーザー・アカウントの下で実行されるように MQSeriesService コンポーネントを再構成することがあります。 このパラメーターが指定されると、すべてのデフォルトの設定と許可を持つローカル・ユーザー・アカウント MUSR_MQADMIN が再作成されます。MQSeriesService コンポーネントは、このアカウントの下で実行されるように構成されます。	ユーザー・アカウントはリセットされません。
-s	サイレント・インストール・モード	サイレントで処理されます。何も表示されず、ユーザー入力も行われません。	サイレント・モードではありません。
-p ファイル	ファイルからのユーザー・パラメーター	パラメーター・ファイルにあるパラメーターをロードして使用します。パスが指定されていない場合、IBM MQ Data ディレクトリーが想定されます。ファイル名が指定されていない場合、AMQMJPSE.INI が想定されます。 以下のスタンザがロードされます。 [Services] [SSLMigration]	サイレント・モードのとき、パラメーター・ファイル AMQMJPSE.INI は IBM MQ Data ディレクトリーからロードされます。 サイレント・モードではないとき、パラメーター・ファイルは使用されません。

表 1. Prepare IBM MQ Wizard に使用できる開始パラメーター (続き)			
パラメーター名	パラメーターの説明	パラメーターの使用方法	パラメーターが指定されていない場合のデフォルト・アクション
-m ファイル	Microsoft System Management Server (SMS) 状況 .MIF ファイルを生成します。	Prepare IBM MQ Wizard が閉じるとき、指定された名前の状況 .MIF ファイルを生成します。パスが指定されていない場合、Data ディレクトリーが想定されます。ファイル名が指定されていない場合、AMQMJPSE.MIF が想定されます。 ファイル ISMIF32.DLL (SMS の一部としてインストールされた) はパスに含まれている必要があります。 ファイルの「InstallStatus」フィールドには、「Success」または「Failed」のいずれかが含まれます。	.MIF ファイルは作成されません。

Prepare IBM MQ Wizard での IBM MQ アカунトの構成

適切な権限を持つユーザー・アカウントで IBM MQ を構成する必要があります。

このタスクについて

企業のドメイン・コントローラーが Windows 2000 Server、Windows 2003 Server、またはそれ以降を実行している場合は、それらのドメイン上で定義されたユーザーがキュー・マネージャーまたはキューにアクセスする権限を持つかどうかの検査に関して、IBM MQ がローカル・アカウントを使用できないようにドメイン・コントローラーをセットアップするかどうかを判断する必要があります。そのようにセットアップする場合は、IBM MQ に特別なドメイン・ユーザー・アカウントを指定して使用する必要があります。

重要: 特別なドメイン・ユーザー・アカウントが必要なのにそのまま続行し、そのアカウントを使用しないで IBM MQ を構成した場合、関係する特定のユーザー・アカウントに応じて、IBM MQ の多くの部分またはすべての部分が機能しない可能性があります。

手順

1. IBM MQ は実行中に、許可ユーザーのみがキュー・マネージャーまたはキューにアクセスできることを検査する必要があります。ユーザーがそのようなアクセスを試みると、IBM MQ は自分自身のローカル・アカウントを使用してユーザーに関する情報を照会します。
2. Windows 2000 Server、Windows 2003 Server、またはそれ以降を実行するドメイン・コントローラーは、それらのドメイン上で定義されたユーザーがキュー・マネージャーまたはキューにアクセスする権限を持つかどうかの検査に関して、IBM MQ がローカル・アカウントを使用できないようにセットアップできます。この場合、IBM MQ に特別なドメイン・ユーザー・アカウントを指定する必要があります。この場合に当てはまるかどうかわからない場合は、ドメイン管理者に問い合わせてください。
3. 特別なドメイン・ユーザー・アカウントが必要な場合は、7 ページの『[Windows アカунトの構成](#)』ページをドメイン管理者に送信し、そこに記載されている特別なアカウントのうちの 1 つを要求してください。
4. アカунトの詳細を「Prepare IBM MQ Wizard」に入力します。このウィザードは、インストールの最後に自動的に実行されます。また、このウィザードは、いつでも「スタート」メニューから実行することもできます。

Windows Windows アカунトの構成

Windows Server 2000 以降を実行するドメイン・コントローラーは、ドメイン上で定義されたユーザーがキュー・マネージャーまたはキューにアクセスする権限を持つかどうかの検査に関して、IBM MQ がローカ

ル・アカウントを使用できないようにセットアップできます。この場合、IBM MQ に特別なドメイン・ユーザー・アカウントを指定する必要があります。

始める前に

注: IBM MQ のインストールまたは構成を行っており、使用する特別なアカウントをドメイン管理者に割り当ててもらわなければならない場合は、次のようにして、このページ全体を管理者に送信してください。

- このページを右クリックし、「**すべて選択**」をクリックします。
- もう一度右クリックし、「**コピー**」をクリックします。
- ご使用の E メール・アプリケーションでメールの本文に**貼り付け**ます。

このタスクについて

ローカル・ユーザーを mqm グループに追加すると、ユーザーはシステム上の IBM MQ を管理できます。この作業は、Windows ドメイン・ユーザー ID を使用して同じことを行う方法を説明しています。

IBM MQ には Windows サービスとして実行しているコンポーネントがあり、それは IBM MQ にアクセスしようとしているすべてのユーザー・アカウントが許可されているかを検査します。検査の一部として、このサービスは、アカウントがどのグループのメンバーであるかを照会する必要があります。サービス自体は、インストール時に IBM MQ によって作成されたローカル・ユーザー・アカウントの下で実行されます。

ネットワーク上のドメイン・コントローラーで Windows 2000、Windows 2003、またはそれ以降をご使用の場合、ローカル・ユーザー・アカウントがそのドメイン・ユーザー・アカウントのグループ・メンバーシップを照会する権限を持たないように設定できます。この場合 IBM MQ は検査を完了することができないため、アクセスが失敗します。この状態に対処するには、以下の手順を実行します。

- ネットワーク上の各 IBM MQ のインストールを、必要な権限を (作成方法については手順を参照) 持つドメイン・ユーザー・アカウントの下でサービスを実行するように構成する必要があります。
- **注:** インストーラーが継続し、特別なアカウントなしで IBM MQ を構成した場合、IBM MQ の一部またはすべての部分は、以下のように、関係する特定のユーザー・アカウントに応じて機能しません。
 - 他のコンピューター上の Windows 2000、Windows 2003、または Windows Server 2016 ドメイン・アカウントの下で実行されているキュー・マネージャーへの IBM MQ 接続は失敗する可能性があります。
 - 典型的なエラーには、AMQ8066: Local mqm group not found および AMQ8079: Access was denied when attempting to retrieve group membership information for user 'abc@xyz' があります。

この後に続く詳細な説明に従うと、ドメイン管理者は以下を行うことができます。

1. グローバルまたは汎用ドメイン・グループを作成し、このグループのメンバーに、任意のアカウントのグループ・メンバーを照会できる権限を与える。
2. 1つ以上のユーザー・アカウントを作成し、グループに追加する。
3. 各ドメインごとにステップ 2 からステップ 4 までを繰り返す。
4. このアカウントを使用して、IBM MQ の各インストール・システムを構成します。
5. パスワードの有効期間を設定します。

以下はドメイン管理者のための情報です。IBM MQ を管理する必要があるユーザー名を含むドメインごとにステップ 2 から 4 までを繰り返し、各ドメインに IBM MQ のアカウントを作成します。

詳しくは、[IBM MQ の管理](#)を参照してください。

手順

1. IBM MQ が認識する特殊名を持つドメイン・グループを作成し、このグループのメンバーに、任意のアカウントのグループ・メンバーシップを照会する権限を付与します。

Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、および Windows Server 2016

- a. ドメイン管理者権限をもったアカウントで、ドメイン・コントローラーにログオンします。
- b. 「**Server Manager (サーバー・マネージャー)**」、> 「**Roles (役割)**」、> 「**Active Directory Domain Services (Active Directory ドメイン・サービス)**」を開きます。
- c. ナビゲーション・ペインでドメイン名を探し、それを右クリックして「**New Group (新規グループ)**」を選択します。
- d. Domain mqm と入力します (IBM MQ によって認識および使用されるため、正確にこれと同じストリングを使用する)。
- e. 「**Group scope (グループ有効範囲)**」で、「**Global (グローバル)**」または「**Universal (汎用)**」のいずれかを選択します。
- f. 「**Group type (グループ・タイプ)**」で「**Security (セキュリティ)**」を選択し、「**OK**」をクリックします。
- g. サーバー・マネージャーで「**Tools (ツール)**」をクリックし、リスト・ボックスから「**Active Directory Users and Computers (Active Directory ユーザーとコンピューター)**」を選択します。
- h. 「**View (表示)**」> 「**Advanced features (拡張機能)**」を選択します。
- i. 対象のドメイン名を展開し、「**Users (ユーザー)**」をクリックします。
- j. 「**Users (ユーザー)**」ウィンドウで「**Domain mqm (ドメイン mqm)**」> 「**Properties (プロパティ)**」を右クリックします。
- k. 「**セキュリティ**」タブで、「**詳細設定**」> 「**追加...**」をクリックします。
- l. 「**Select principle (プリンシパルの選択)**」をクリックし、Domain mqm と入力し、「**Check names (名前の確認)**」> 「**OK**」をクリックします。
「名前」フィールドには、ストリング Domain mqm (*domain name*\Domain mqm) が事前に入力されています。
- m. 「**Applies to (適用先)**」リストで「**Descendant User Objects (子ユーザー・オブジェクト)**」を選択します。
- n. 「**Permissions (アクセス許可)**」リストで「**Read group membership (グループ・メンバーシップを読み取る)**」と「**Read groupMembershipSAM (グループ・メンバーシップ SAM を読み取る)**」のチェック・ボックスを選択します。
- o. 「**OK**」> 「**Apply (適用)**」> 「**OK**」> 「**OK**」をクリックします。

Windows Server 2008 と Windows Server 2008 R2

- a. ドメイン管理者権限をもったアカウントで、ドメイン・コントローラーにログオンします。
- b. 「**Server Manager (サーバー・マネージャー)**」、> 「**Roles (役割)**」、> 「**Active Directory Domain Services (Active Directory ドメイン・サービス)**」を開きます。
- c. ナビゲーション・ペインでドメイン名を探し、それを右クリックして「**New Group (新規グループ)**」を選択します。
- d. Domain mqm と入力します (IBM MQ によって認識および使用されるため、正確にこれと同じストリングを使用する)。
- e. 「**Group scope (グループ有効範囲)**」で、「**Global (グローバル)**」または「**Universal (汎用)**」のいずれかを選択します。
- f. 「**Group type (グループ・タイプ)**」で「**Security (セキュリティ)**」を選択し、「**OK**」をクリックします。
- g. サーバー・マネージャーのアクション・バーで、「**表示**」> 「**高度な機能**」をクリックします。
- h. 「**Users (ユーザー)**」ウィンドウで「**Domain mqm (ドメイン mqm)**」> 「**Properties (プロパティ)**」を右クリックします。
- i. 「**セキュリティ**」タブで、「**拡張**」> 「**追加...**」をクリックします。次に Domain mqm と入力し、「**名前の確認**」> 「**OK**」をクリックします。

「名前」フィールドには、ストリング Domain mqm (domain name\Domain mqm) が事前に入力されています。

- j. 「プロパティ」をクリックします。「Apply to (適用先)」リストで「Descendant User Objects (子ユーザー・オブジェクト)」を選択します。
 - k. 「Permissions (アクセス許可)」リストで「Read group membership (グループ・メンバーシップを読み取る)」と「Read groupMembershipSAM (グループ・メンバーシップ SAM を読み取る)」のチェック・ボックスを選択します。
 - l. 「OK」>「Apply (適用)」>「OK」>「OK」をクリックします。
2. 次のようにして、1つ以上のアカウントを作成してグループに追加します。
- a. **Active Directory 「ユーザーとコンピューター」**で、任意の名前のユーザー・アカウントを作成し、それをグループ Domain mqm に追加します。
 - b. 作成するすべてのアカウントについてこれを繰り返します。
3. IBM MQ を管理する必要があるユーザー名を含むドメインごとにステップ 1 と 2 を繰り返し、各ドメインに IBM MQ のアカウントを作成します。
4. このアカウントを使用して、IBM MQ の各インストール・システムを構成します。
- a. IBM MQ の各インストールで同じドメイン・ユーザー・アカウント (前のステップ 1 で作成したもの) を使用するか、それぞれに別個のアカウントを作成して、それぞれを Domain mqm グループに追加します。
 - b. アカウントを作成したら、IBM MQ のインストールを構成する各ユーザーにアカウントを割り当てます。このユーザーは、「Prepare IBM MQ Wizard」にアカウントの詳細 (ドメイン名、ユーザー名、およびパスワード) を入力する必要があります。構成者には、それぞれのインストール・ユーザー ID と同じドメインに存在するアカウントを与えてください。
 - c. ドメイン上のコンピューターに IBM MQ をインストールすると、IBM MQ インストール・プログラムは LAN 上に Domain mqm グループがあることを検出し、そのグループをローカル「mqm」グループに自動的に追加します。(ローカル「mqm」グループはインストール時に作成されます。その中のすべてのユーザー・アカウントが IBM MQ を使用する権限を持っています)。したがって、Domain mqm グループのすべてのメンバーが、このコンピューター上の IBM MQ を使用する権限を持ちます。
 - d. ただし、各インストールごとにドメイン・ユーザー・アカウント (上のステップ 1 で作成) を指定して、照会のときに IBM MQ がそのアカウントを使用するように構成しなければなりません。インストールの最後に自動的に実行される「Prepare IBM MQ Wizard」にアカウントの詳細を入力する必要があります (ウィザードは、好きなときに「スタート」メニューから実行することもできます)。
 - e. そのアカウントには、サービスとして実行するためのユーザー権限が必要です。クリックスタート > 実行... secpol.msc と入力します。「サービスとしてログオン」>「ユーザーまたはグループの追加...」をダブルクリックします。ドメイン・ユーザーを追加します。「Check Names (名前の確認)」>「OK」>「OK」をクリックします。
5. 次のようにして、パスワードの有効期限を設定します。

- すべての IBM MQ ユーザーに 1 つのアカウントだけを使用する場合は、アカウントのパスワードの有効期限が切れることがないようにしてください。そうでないと、パスワードの有効期限が切れると同時に、IBM MQ のすべてのインスタンスが動作を停止します。
- IBM MQ の各ユーザーに独自のユーザー・アカウントを与えると、作成および管理するユーザー・アカウントの数が多くなります。ただし、パスワードの有効期限が切れた時に作業を停止する IBM MQ のインスタンスは 1 つだけになります。

パスワードの有効期限が切れるように設定している場合は、その有効期限が切れるたびに、IBM MQ からメッセージが表示されることをユーザーに警告してください。メッセージは、パスワードの有効期限が切れたことを警告し、そのリセット方法を説明します。

Prepare IBM MQ Wizard の完了

プロセスが完了すると、ウィザードで「IBM MQ 準備ウィザードの完了」ページが表示されます。このページでは、IBM MQ Explorer を開始したり、リリース情報を開いたりすることを選択できます。

このタスクについて

このページ上の選択項目は任意指定ですが、この機会にリリース情報を参照して印刷することをお勧めします。

手順

1. IBM MQ Explorer を開始するか、リリース情報を開くかを選択します。

IBM MQ Explorer

IBM MQ Explorer は ご使用のコンピューター上で IBM MQ を管理するためのメイン・インターフェースです。

リリース情報

リリース情報ファイルにはインストール情報が含まれます。また、このリリースの IBM MQ に関する情報が記載された、オンラインの製品 README 文書へのリンクが含まれています。重要な情報は、ご使用のコンピューター上の他の場所や公開文書で参照できない可能性があるため、必要に応じてリリース情報と README 文書を参照して印刷してください。

2. 「完了」をクリックして、ウィザードを閉じます。

IBM MQ Explorer およびリリース・ノートを開くためのオプションを選択してある場合は、それらが開きます。

「デフォルト構成」ウィザードを使用したデフォルト構成の作成、表示、または変更

「Default Configuration (デフォルト構成)」ウィザードを使用すると、デフォルト構成を作成、表示、または変更することができます。

デフォルト構成は、Postcard アプリケーションと IBM MQ Explorer を使用して IBM MQ を素早く簡単に探索できるようにする特殊なセットアップ・アプリケーションです。

「IBM MQ Explorer によるこそ」の「コンテンツ・ビュー」ページを使用してデフォルト構成を作成できます。このページを使用すると、後でクラスター構成の表示または変更ができます。

デフォルト構成について詳しくは、[11 ページの『デフォルト構成』](#)を参照してください。

インストール検査に Postcard アプリケーションとそのサポートされるデフォルト構成ウィザードを使用することは、IBM MQ 9.1.0 で非推奨となりました。

デフォルト構成

IBM MQ のインストール後に「デフォルト構成」パネルを使用して、デフォルト構成を作成、表示、または変更することができます。

デフォルト構成は、Postcard アプリケーションと IBM MQ Explorer を使用して IBM MQ を素早く簡単に探索できるようにする特殊なセットアップです。

このパネル上のすべてのフィールドは表示専用であり、直接変更することはできないことに注意してください。変更するには、いずれかのボタンをクリックしてください。

リモート管理

「許可」および「禁止」ボタンは、即時に有効になり、示されたキュー・マネージャーを設定します。

デフォルト・クラスター・メンバーシップ

構成がクラスターに結合される場合は、クラスター名が「クラスター名」に表示され、「リポジトリの位置」は「このコンピューター」または「リモート・コンピューター」のいずれかです。リポジトリがリモート・コンピューター上にある場合は、「リポジトリ・コンピューター名」または「リポジトリ IP アドレス」によって、どのコンピューター上にあるかが示されます。

「名前」が「なし」と表示される場合、構成はクラスターに結合されていません。デフォルト・クラスターを結合するには、適切な時点で「デフォルト・クラスターの結合」をクリックして「デフォルト構成ウィザード」を開始します。

デフォルト構成のセットアップ

デフォルト構成がまだセットアップされていない場合は、このボタンをクリックして「デフォルト構成ウィザード」を開始します。ウィザードの各パネルについて詳しくは、以下のトピックを参照してください。

- [12 ページの『デフォルト・キュー・マネージャー構成』](#)
- [12 ページの『デフォルト・クラスターの結合』](#)
- [13 ページの『ローカル・リポジトリー』](#)
- [13 ページの『リモート・リポジトリー』](#)

注:

1. キュー・マネージャーを作成した後は、デフォルト構成を作成することはできません。キュー・マネージャーの作成後にデフォルト構成を作成する場合は、まず、既存のキュー・マネージャーをすべて削除してください。
2. デフォルト構成を作成しない場合は、独自のキュー・マネージャーを作成して、それをポストカードのアプリケーションから使用できます。
3. デフォルト構成クラスターは1つのリポジトリーしか持たず、さらに1つのキュー・マネージャーしか持たない場合もあるため、一般的なクラスターではありません。

デフォルト・キュー・マネージャー構成

「デフォルト構成」パネルでは、キュー・マネージャーのリモート管理を許可するかどうか、またデフォルト・クラスターを結合するかどうかを選択できます。

注: デフォルトのキュー・マネージャーの名前はご使用のコンピューター名に基づきます。このため、IBM MQ Explorer から他のコンピューター上のキュー・マネージャーをリモート管理するときに、この名前を簡単に見つけることができます。

リモート管理

「許可」をチェックして、リモートの IBM MQ コンピューター上のユーザーが、このコンピューター上のこのキュー・マネージャーを管理できるようにします。この設定は、このキュー・マネージャーが特定のクラスターに結合されているかどうかには関係がありません。しかし、通常は、クラスターリングによって得られる単一ポイント管理の利点を全面的に活用できるように、リモート管理を使用可能にします。

デフォルト・クラスターの結合

注: デフォルト・クラスターの名前は DEFAULT_CLUSTER と設定されます。これによって、同じネットワークに接続するコンピューター上のすべての IBM MQ インストールが、デフォルト構成を使用して、同じクラスターに結合し、お互いへのメッセージの送信を即時に開始できます。

キュー・マネージャーを同じクラスターに結合するには、各キュー・マネージャーが同じクラスター名を指定する必要があります。また、いずれかのコンピューターをクラスター・リポジトリーとして定義し、そのリポジトリーを使用するように他のすべてのコンピューターを設定する必要があります。次のパネル [12 ページの『デフォルト・クラスターの結合』](#) でこの設定を行います。

デフォルト・クラスターの結合

デフォルト構成を作成する際に、デフォルト・クラスターを結合するためのオプションが示される場合があります。

IBM MQ デフォルト構成パネルに以下のようなメッセージが表示される場合があります。

このコンピューターでデフォルト構成を完了するには、「デフォルト・クラスターの結合」をクリックしてデフォルト・クラスターを結合してください。

これは、クラスターを結合する場合にのみ必要です。

デフォルト構成クラスターを作成するには、クラスター内のキュー・マネージャーの1つがクラスター・リポジトリーを持ち、その他のすべてのキュー・マネージャーがそれを指し示すようにする必要があります(これは一般的なクラスターとは少し異なります)。

表 2. デフォルト構成クラスターの結合に関する「はい」および「いいえ」のオプションを選択するための選択肢

シナリオ	選択するオプション
このクラスターの別のコンピューターにまだ IBM MQ をインストールしていない場合。	「はい」を選択して、これをローカル・リポジトリにします。 注：このコンピューターが DHCP (IP アドレスの動的割り振り) を使用する場合、通常、リポジトリをこのコンピューターに置くことはできません (IP アドレスが変わると、その他のキュー・マネージャーが (このコンピューター上にある場合でも) コンピューターを検出できなくなるためです)。ただし、これがクラスター内の唯一のキュー・マネージャーである場合は、リポジトリにしてもかまいません。
IBM MQ がすでに別のコンピューターにインストールされており、そのコンピューター上のキュー・マネージャーがクラスターのリポジトリとして定義されている場合。	「いいえ」を選択して、次のパネル (「リモート・リポジトリ」) で、リポジトリ・キュー・マネージャーを持つコンピューターの名前を指定します。

ローカル・リポジトリ

IBM MQ がクラスター内の別のコンピューター上にまだインストールされていない場合は、使用するローカル・コンピューターをローカル・リポジトリとして定義することができます。

ヒント：ローカル・リポジトリとしてコンピューターを定義する場合は、そのコンピューター名を、後で参照するときに備えてメモしておいてください。

このネットワーク上の別のコンピューターに IBM MQ をインストールする際には、そこにデフォルト構成をインストールし、このコンピューター名をリモート・ロケーションとして入力することでリモート・リポジトリを指定し、2つのコンピューターが同じクラスターに結合されるようにします。

クラスターに結合する別のコンピューターがネットワーク上にあり、このコンピューターに IBM MQ が既にインストールされているが、デフォルト構成がまだインストールされていない場合は、デフォルト構成ウィザードを使用してデフォルト構成をインストールします。

リモート・リポジトリ

ローカル・リポジトリを定義しないことにした場合、代わりにリモート・リポジトリを定義する必要があります。

「デフォルト・クラスターの結合」パネルで、ローカル・コンピューターのキュー・マネージャーをローカル・リポジトリとして定義しないことにした場合は、その代わりに、このクラスターのリモート・リポジトリになるキュー・マネージャーを保持するコンピューターを定義する必要があります。コンピューターをリモート・リポジトリとして定義するには、リモート・コンピューターの TCP/IP コンピューター名 (または IP アドレス) を入力します。

以下のいずれかの理由などでコンピューターがリモート・リポジトリになる準備がまだできていない場合でも、この時点でこのコンピューターをリモート・リポジトリとして定義できます。

- IBM MQ をインストールしたが、まだ構成していない。
- IBM MQ をまだインストールしていない。

ただし、クラスターを使用する前に、「デフォルト構成」ウィザードを使用して、そのマシンを適切に再構成する必要があります。

Windows IBM MQ for Windows のアンインストールまたは変更

現在のインストールをアンインストールまたは変更するには、IBM MQ インストーラーを使用します。

このタスクについて

IBM MQ をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「スタート」 > 「設定」 > 「コントロールパネル」 > 「プログラムの追加と削除」を選択してウィザードを開始します。
リストから「**IBM MQ**」を選択します。
2. 「変更」または「削除」を選択します。
 - 「変更」 をクリックして IBM MQ インストーラーを開き、ステップ 3 に進みます。
 - 「削除」 をクリックし、これ以上の対話を行わず、すぐに IBM MQ を除去します (キュー・マネージャーは除去されません)。
3. IBM MQ インストーラーで、次を選択します。
 - 「変更」 では、IBM MQ 機能のインストールまたはアンインストールを選択できます。
 - 「除去」 では、すべての IBM MQ プログラム・ファイルが除去されます。すべてのキュー・マネージャーおよびそれらのオブジェクトの除去も選択できます。
4. 選択を行うと、インストールの要約が表示されます。
選択した機能のリストが正しいことを確認してから、インストールまたはアンインストールを確定してください。

タスクの結果

IBM MQ がアンインストールまたは変更されます。

ポストカード・サンプルを使用した IBM MQ インストール済み環境の検査

ポストカード・サンプル・アプリケーションをセットアップして使用すると、IBM MQ のローカル・インストール済み環境またはサーバー間インストール済み環境を検査し、関連付けられた通信リンクが正常に機能しているかをテストすることができます。

このタスクについて

インストール検査に Postcard アプリケーションとそのサポートされるデフォルト構成ウィザードを使用することは、IBM MQ 9.1.0 で非推奨となりました。

ご使用のインストール済み環境を検査するには、ポストカード・サンプルのインスタンスを 2 つ開始し、それらの 2 つのインスタンス間でメッセージを交換します。これらのインスタンスは、同じコンピューター上にあっても、接続された別々のコンピューター上にあっても構いません。

手順

1. ポストカード・サンプルを開始します。
 - a) 正しいコンテンツ・ビューを開いて、ポストカードを起動します。
ナビゲーターで IBM MQ を選択します。
 - b) ポストカード・アプリケーションを開始します。
「IBM MQ Explorer 内容へようこそ」ビュー・ページで **Postcard** の起動を選択します。
 - c) ポストカード・サンプルを開始したら、サインオンし、ニックネーム (例: Nick) を入力します。
サインオン・ダイアログでは拡張オプションを使用できます。詳しくは、[サインオン](#)を参照してください。
2. ポストカードを送信します。

Nick というニックネームでサインオンを行ったとして、ポストカードを Nick から別のニックネーム (例えば Tim) へ送信します。この操作は、同じコンピューター上の同じキュー・マネージャーを使用しても実行できますし、同じコンピューターまたは別のコンピューター上にある別のキュー・マネージャーを使用しても実行できます。

- Tim がこのコンピューターの同一のキュー・マネージャー上にいる場合
- Tim がこのコンピューターまたは別のコンピューターの別のキュー・マネージャー上にいる場合

3. ポストカードが届いたことを確認します。

Tim がポストカードを受信したことを確認してください。

タスクの結果

ポストカードの正常な着信により、ご使用の IBM MQ インストール環境が正常に動作していることがわかります。

関連タスク

IBM MQ のインストールと構成

IBM MQ へようこそ。このヘルプ資料では、IBM MQ をインストールおよび構成するときに必要になる可能性がある情報を参照できます。

ポストカード: サインオン

ポストカードのアプリケーションは、デフォルト構成キュー・マネージャーと自作のキュー・マネージャーのどちらでも使用できます。

このタスクについて

ご使用の IBM MQ インストール済み環境を検査するには、ポストカード・サンプルのインスタンスを 2 つ開始し、それらの 2 つのインスタンス間でメッセージを交換します。これらのインスタンスは、同じコンピューター上にあっても、接続された別々のコンピューター上にあっても構いません。

ポストカード・サンプルを実行する際には、デフォルト構成キュー・マネージャーまたは自作のキュー・マネージャーのどちらでも使用できます。

デフォルト構成キュー・マネージャーを使用する場合

「デフォルト構成ウィザード」を使用して、最初に構成されたキュー・マネージャーを IBM MQ インストール済み環境に追加できます。このウィザードの使用について詳しくは、[11 ページの『「デフォルト構成」ウィザードを使用したデフォルト構成の作成、表示、または変更』](#)を参照してください。

デフォルト構成キュー・マネージャーを使用したポストカードの送信は、ポストカード・サンプルを使用する最も簡単な方法であり、また複数のコンピューター間でポストカードを送信する最もシンプルな方法です。2 台以上のコンピューター間でポストカード・サンプルを使用する場合、すべてのコンピューター上でデフォルト構成のウィザードが実行されたことを確認してください。キュー・マネージャーがセットアップされていないコンピューターでポストカード・サンプルを開始した場合、「デフォルト構成ウィザード」を起動するか、それともポストカードを閉じるかを尋ねられます。

注: 「デフォルト構成ウィザード」を使用してクラスターを作成する場合は、クラスター内のコンピューターのうち 1 つがクラスターのリポジトリをホストし、その他のすべてのコンピューターがその最初のコンピューターをリポジトリとして使用することで、すべてのコンピューターが同一のクラスター内に属するようにしてください。

他のキュー・マネージャーを使用する場合

ポストカード・サンプルを実行するコンピューター上に他のキュー・マネージャーが定義されている場合、ポストカード・サンプルが使用するキュー・マネージャーを選択することができます。1 つ以上のコンピューター上の 2 つのキュー・マネージャー間でポストカードを送信する場合、以下の条件がインストール済み環境で満たされていることを確認してください。

- 対象のキュー・マネージャーは同一のクラスター内にある。
- 対象キュー・マネージャー間に明示接続が作成されている。

手順

- デフォルト構成キュー・マネージャーを使用する手順
 - a) 1 番目のポストカードの「**ニックネーム**」フィールドに、ポストカードの送信に使用するニックネーム (例: Nick) を入力し、2 番目のポストカードで、ポストカードの受信に使用するニックネーム (例: Tim) を入力します。

ニックネームはどのようなものでもかまいません。
 - b) 「**OK**」をクリックして先に進みます。

ポストカード・サンプルが、デフォルト構成キュー・マネージャーを使用して、2 つのニックネーム間でメッセージを交換します。
- 別のキュー・マネージャーを使用する手順
 - a) 1 番目のポストカードの「**ニックネーム**」フィールドに、ポストカードの送信に使用するニックネーム (例: Nick) を入力し、2 番目のポストカードで、ポストカードの受信に使用するニックネーム (例: Tim) を入力します。

ニックネームはどのようなものでもかまいません。
 - b) 「**拡張 (Advanced)**」 チェック・ボックスを選択します。

ダイアログに追加のオプションが表示されます。
 - c) 拡張ダイアログで「**メールボックスのキュー・マネージャーを選択 (Choose queue manager as mailbox)**」をクリックし、リストからキュー・マネージャーを選択します。
 - d) 「**OK**」をクリックして先に進みます。

postcard というローカル・キューが選択したキュー・マネージャーに自動的に生成されます。すべてのポストカードが、同一または異なるコンピューター上で、メッセージの送信にこのキュー・マネージャー名を使用することを確認してください。ポストカード・サンプルが、選択されたキュー・マネージャーを使用して、2 つのニックネーム間でメッセージを交換します。

関連タスク

ポストカード: 1 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換

1 つのキュー・マネージャーを使用して、2 つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始し、その間でメッセージを送信することができます。

ポストカード: 2 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換

2 つのキュー・マネージャーを使用して、2 つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始し、その間でメッセージを送信することができます。

関連資料

ポストカード: 異なるタイプのポストカード間のメッセージ交換

さまざまなバージョンの製品およびオペレーティング・システム上にあるポストカード・インスタンス間でメッセージを交換できます。

ポストカード: ポストカードの動作

ポストカード・サンプルの内部処理の説明。

ポストカード: 1 つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換

1 つのキュー・マネージャーを使用して、2 つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始し、その間でメッセージを送信することができます。

このタスクについて

サインオンの説明に従ってポストカード・サンプルを開始したときに、そのポストカードで使用するニックネーム (例: Nick) を指定しました。ポストカードをこのコンピューター上の 2 番目のニックネームに送信するには、単一のキュー・マネージャーを使用して以下の手順を実行します。

手順

1. Nick のポストカードを画面の一方に寄せ、2 番目のポストカードを開始します。

2. 2番目のポストカードの「サインオン」ダイアログで、2番目のニックネーム、例えばTimを入力します。
3. Nickのポストカードの「宛先 (To)」フィールドに、2番目のニックネームTimを入力します。「場所 (On)」フィールドは空のままであればポストカードによって書き込まれます。また、メッセージ・ボックスの下の「On:」の後ろにあるキュー・マネージャー名を入力することもできます。
4. 「メッセージ (Message)」ボックスをクリックしてメッセージを入力した後、「送信 (Send)」をクリックします。
5. Timのポストカードを見てメッセージが届いていることを確認し、メッセージをダブルクリックしてポストカード自体を参照します。
6. 今度はTimを使ってNickにポストカードを返信します。これは、Timのリストに届いたメッセージを選択し、「返信 (Reply)」をクリックすることで簡単にできます。

関連タスク

ポストカード: サインオン

ポストカードのアプリケーションは、デフォルト構成キュー・マネージャーと自作のキュー・マネージャーのどちらでも使用できます。

ポストカード: 2つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換

2つのキュー・マネージャーを使用して、2つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始し、その間でメッセージを送信することができます。

関連資料

ポストカード: 異なるタイプのポストカード間のメッセージ交換

さまざまなバージョンの製品およびオペレーティング・システム上にあるポストカード・インスタンス間でメッセージを交換できます。

ポストカード: ポストカードの動作

ポストカード・サンプルの内部処理の説明。

ポストカード: 2つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換

2つのキュー・マネージャーを使用して、2つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始し、その間でメッセージを送信することができます。

このタスクについて

サインオンの説明に従ってポストカード・サンプルを開始したときに、そのポストカードで使用するニックネーム (例: Nick) を指定しました。このコンピューターまたは別のコンピューター上に2番目のキュー・マネージャーがあり、双方のキュー・マネージャーが同じクラスター内にあるか、あるいはそれらの2つのキュー・マネージャー間で通信するチャンネルが構成されている場合、2番目のキュー・マネージャー上の別のニックネームにポストカードを送信することができます。ポストカードを2番目のニックネームに送信するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 2番目のポストカードを開始します。これは、2番目のキュー・マネージャーの場所に応じて、Nickのポストカードを開始したコンピューターか、または別のコンピューターのいずれかで行います。
2. 2番目のポストカードの「サインオン」ダイアログで、2番目のニックネーム、例えばTimを入力します。
3. Nickのポストカードで、以下の情報を入力します。
 - a) 「宛先」フィールドに、2番目のニックネーム、例えばTimを入力します。
 - b) 「On」フィールドに、Timのポストカードがあるコンピューター上のキュー・マネージャー名を入力します。

この名前が不明である場合、Timのポストカード内で、メッセージ・ボックスの下にある「On:」の後ろを見てください。あるいは、双方のキュー・マネージャーがデフォルト構成クラスター内にある場合は、TimのコンピューターのTCP/IP短縮名を入力するだけで、「デフォルト構成ウィザード」と同様の方法でポストカードによってその短縮名がキュー・マネージャー名に形成されます。

- カスタム・キュー・マネージャーを選択するには、「**拡張**」をクリックします。
4. Nick のポストカードでメッセージをタイプして「**送信 (Send)**」をクリックします。
 5. Tim のポストカードを見てメッセージが届いていることを確認し、メッセージをダブルクリックして表示します。
 6. 今度は Tim のコンピューターから Nick に返信します。これを行うには、Tim のリストに届いたメッセージを選択し、「**返信**」をクリックします。

関連タスク

[ポストカード: サインオン](#)

ポストカードのアプリケーションは、デフォルト構成キュー・マネージャーと自作のキュー・マネージャーのどちらでも使用できます。

[ポストカード: 1つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換](#)

1つのキュー・マネージャーを使用して、2つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始し、その間でメッセージを送信することができます。

関連資料

[ポストカード: 異なるタイプのポストカード間のメッセージ交換](#)

さまざまなバージョンの製品およびオペレーティング・システム上にあるポストカード・インスタンス間でメッセージを交換できます。

[ポストカード: ポストカードの動作](#)

ポストカード・サンプルの内部処理の説明。

ポストカード: 異なるタイプのポストカード間のメッセージ交換

さまざまなバージョンの製品およびオペレーティング・システム上にあるポストカード・インスタンス間でメッセージを交換できます。

以下のさまざまなタイプのポストカード・サンプル間でメッセージを交換できます。

- Windows 上の IBM MQ におけるポストカード・サンプル
- Linux® や UNIX などの他のオペレーティング・システム上の IBM MQ でのポストカード・サンプル
- Windows 上の旧バージョンの製品の MQI ポストカード・サンプル
- Windows 上の前のバージョンの製品の JMS ポストカード・サンプル
- 他のオペレーティング・システム (Linux や UNIX など) 上の旧バージョンの製品の JMS ポストカード・サンプル

関連タスク

[ポストカード: サインオン](#)

ポストカードのアプリケーションは、デフォルト構成キュー・マネージャーと自作のキュー・マネージャーのどちらでも使用できます。

[ポストカード: 1つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換](#)

1つのキュー・マネージャーを使用して、2つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始し、その間でメッセージを送信することができます。

[ポストカード: 2つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換](#)

2つのキュー・マネージャーを使用して、2つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始し、その間でメッセージを送信することができます。

関連資料

[ポストカード: ポストカードの動作](#)

ポストカード・サンプルの内部処理の説明。

ポストカード: ポストカードの動作

ポストカード・サンプルの内部処理の説明。

以下の表は、ポストカード・サンプルが実施する機能およびそのコーディング実施方法の一覧です。

表 3. ポストカードの機能および各機能を実現するために使用する関連コーディング	
ポストカードの機能	ポストカードのコーディング
<p>開始。 ポストカードは開始されると、このコンピューターにどんなキュー・マネージャーがあるかをチェックし、それに応じてサインオン・ダイアログの初期設定を行います(キュー・マネージャーが全くない場合、デフォルト構成作成のプロンプトが出されます)。</p>	<p>ポストカードは、デフォルトのキュー・マネージャー(ご使用のコンピューターの TCP/IP 変換名になっています)に接続するために MQI 呼び出し MQCONN を使用します。</p>
<p>メッセージの受信。 Postcard は、実行中は常に、他の Postcard からの着信メッセージについて postcard というキューをポーリングします。postcard というキューがない場合、ポストカードはその作成を行います。</p>	<p>ポストカードは、メッセージ記述子 (MQMD) 内の相関 ID (CorrelId フィールド) をこのポストカードのニックネームに設定した状態で、キューに対して 1 度 MQOPEN 呼び出しを実行してから、その後定期的に MQGET 呼び出しを実行することによってポーリングをします。したがって、一致するニックネームを持つメッセージのみが読み取られます。その後、メッセージ・データの単語がポストカード・ウィンドウに表示されます。</p>
<p>メッセージの送信。</p>	<p>「On:」フィールドにコンピューター名を入力しない場合、ポストカードは受信者が送信者と同じキュー・マネージャー上にいるとみなします。「On:」フィールドにコンピューター名を入力すると、ポストカードはローカルのメールボックスがデフォルト構成のキュー・マネージャーかどうかをチェックし、そうであれば、デフォルト構成ウィザードがキュー・マネージャーを命名する際に使用するものと同じ変換ルールによって、そのコンピューター名をキュー・マネージャー名に変換します。デフォルト構成のものでない場合は、ポストカードは入力された名前をキュー・マネージャー名として使用します。どちらの場合も、ポストカードは MQCONN を行って接続します。その後、ポストカードは、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の ObjectName (キュー) を postcard に設定し、ObjectQMgrName をキュー・マネージャー名に設定して、MQOPEN を実行します。最後に、ニックネームと入力したワードから IBM MQ メッセージが作成され、キューに対して MQPUT が実行されます。</p>
<p>ポストカードの到達方法。 このコンピューター上のポストカードの他のインスタンスが同一のキュー・マネージャーとキューを使用している場合、メッセージは 1 つのキューのみから出し入れされます。これは、このコンピューターにインストールされている IBM MQ コードが正しく構成され、実行されていることを検証します。別のキュー・マネージャーへの送信を行うポストカードの場合、そのキュー・マネージャーへの接続が存在しなければなりません。この接続は双方のキュー・マネージャーが同一クラスターのメンバーであるか、自分で明示的に接続を作成したか、いずれかによって存在します。ポストカードは、したがって、キュー・マネージャーが接続可能であるとみなして接続し、キューを開いてメッセージを置き、メッセージをその宛先に渡すという作業のすべてを IBM MQ クラスター・コードに残します。つまり、ポストカードはメッセージを置くためにたった一片のコードしか使用せず、メッセージが別のコンピューターに送られるかどうかについて知る必要がないのです。</p>	<p>ポストカードでは、MQOPEN が呼び出されると、クラスター・コードはリポジトリをチェックして、他のキュー・マネージャーの検索およびキューの有無のチェックを行い、ある場合は、MQOPEN から OK の戻りコードを返します。MQPUT が呼び出されると、クラスター・コードは他のキュー・マネージャーにチャンネルを開き(必要に応じて作成)、メッセージを送ります。このチャンネルは、クラスター最適化コードがこれを必要としない場合、後に破棄されることがあります。キュー・マネージャー同士が異なるコンピューター上にある場合は、宛先コンピューターへのメッセージ送信はクラスター・コードによって取り扱われます。</p>

表 3. ポストカードの機能および各機能を実現するために使用する関連コーディング (続き)	
ポストカードの機能	ポストカードのコーディング
配信不能メッセージの整理。	「John」にポストカードを送りながらも「John」というニックネームでポストカードを実行したことがなければ、そのメッセージはキュー上に永久に置かれることになります。そうしないために、ポストカードは、メッセージ記述子 (MQMD) のメッセージ存続時間 (Message Lifetime) (Expiry) フィールドを 48 時間に設定します。この時間が過ぎると、メッセージはそれがどこにあらうと、たとえ送信中でも、破棄されます。

関連タスク

ポストカード: サインオン

ポストカードのアプリケーションは、デフォルト構成キュー・マネージャーと自作のキュー・マネージャーのどちらでも使用できます。

ポストカード: 1つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換

1つのキュー・マネージャーを使用して、2つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始し、その間でメッセージを送信することができます。

ポストカード: 2つのキュー・マネージャーを使用するメッセージ交換

2つのキュー・マネージャーを使用して、2つのポストカード・サンプル・インスタンスを開始し、その間でメッセージを送信することができます。

関連資料

ポストカード: 異なるタイプのポストカード間のメッセージ交換

さまざまなバージョンの製品およびオペレーティング・システム上にあるポストカード・インスタンス間でメッセージを交換できます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

U.S.A.

For license inquiries regarding double-byte (DBCS) information, contact the IBM Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

Intellectual Property Licensing

Legal and Intellectual Property Law

〒 103-8510

103-8510

東京 103-8510、日本

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 INTERNATIONAL BUSINESS MACHINES CORPORATION は、法律上の瑕疵担保責任、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。"" 国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

Software Interoperability Coordinator, Department 49XA

3605 Highway 52 N

Rochester, MN 55901

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っていません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、名前や住所が類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報 (提供されている場合) は、このプログラムで使用するアプリケーション・ソフトウェアの作成を支援することを目的としています。

本書には、プログラムを作成するユーザーが WebSphere® MQ のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースに関する情報が記載されています。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

重要: この診断、修正、およびチューニング情報は、変更される可能性があるため、プログラミング・インターフェースとして使用しないでください。

商標

IBM、IBM ロゴ、ibm.com®は、世界の多くの国で登録された IBM Corporation の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、"Copyright and trademark information" www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

この製品には、Eclipse Project (<http://www.eclipse.org/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。



部品番号:

(1P) P/N: